

~~~~~

バークシャー種とヨークシャー種の産仔交換哺育試験

坂井 稔\*・伊藤 祐之\*

SAKAI, Y. and ITO, S. Feeding Test for Pigs, exchanging  
Berkshire and Yorkshire Sows.

---

---

\*九州農業試験場

目的 黒色豚の性能に関する調査の一環として、哺乳時における仔豚発育に及ぼす母性効果と仔豚自身の

遺伝をヨークシャー種 (Y) とパークシャー種 (B) について分析し、これ等夫々の要因の違いを明らかにし、併せて過剰分娩に際しての里仔哺育の技術的分野に資せんとするものである。

材料及び方法 供試豚は1951年以降当場で生産され、略同一条件で飼養されたY種とB種を夫々略同一日に分娩させ、その産仔の半数宛を交換哺育させる方

法によつて、両種の泌乳哺育能力を比較すると共に同一条件における両種仔豚の發育能力を比較した。この場合相対応せる両種の仔豚数は略同数になるように配慮した。用いた種比豚はY種10頭、B種11頭でその産次、産仔交換状況及び哺育頭数の構成は第1表の通りである。

第1表 哺育母豚と仔豚の構成

| 哺育母豚 | 試験番号 | No. 1 | No. 2 | No. 3* | No. 4 | No. 5 | No. 6 | No. 7 | No. 8 | No. 9 | No. 10 | 計  |
|------|------|-------|-------|--------|-------|-------|-------|-------|-------|-------|--------|----|
|      | 母豚産次 | II    | II    | V      | V     | VII   | VI    | II    | III   | IV    | I      |    |
| Y    | Y    | 3     | 2     | 3      | 2     | 2     | 3     | 5     | 4     | 3     | 4      | 31 |
|      | B    | 3     | 2     | 3      | 3     | 3     | 3     | 2     | 4     | 5     | 3      | 31 |
|      | 哺育仔数 | 6     | 4     | 6      | 5     | 5     | 6     | 7     | 8     | 8     | 7      | 62 |
| B    | 母豚産次 | I     | II    | I VII  | II    | I     | II    | III   | II    | V     | III    |    |
|      | B    | 2     | 2     | 3 3    | 2     | 2     | 4     | 4     | 4     | 4     | 3      | 33 |
|      | Y    | 3     | 2     | 3 6    | 3     | 3     | 2     | 4     | 4     | 4     | 2      | 33 |
|      | 哺育仔数 | 5     | 4     | 3 6    | 5     | 5     | 6     | 8     | 8     | 8     | 5      | 66 |

備考 \*No. 3 はY種の分娩仔豚数多きため、B種の種牝豚を2頭用いたことを示す。

成績 1. 生時から離乳に至る60日間における仔豚の死亡は第2表の通りで死因は主に圧死である。Y種とB種の仔豚育成率には大差は認められないが、哺育母豚による差はやや認められる。即ちB母豚はY母豚より圧死率が高いようである。

いは著しく同種の哺育親に哺育せられたB仔群はY仔群に比して、同時期に0.2~0.4kg勝れている。恐らくかかる品種間の違いは、明らかに遺伝差の違いに帰せられるものと考えられる。勝れた泌乳能力を示すY種母豚に勝れた發育に関する遺伝素質をもつB種仔豚を哺育することは、今後の里親哺育に関する養豚技術においてきわめて興味深いことである。

第2表 仔豚育成率

| 仔豚 | 母豚   | 哺育開始仔数 | 死亡仔豚数  |        |        |   | 仔豚育成率 |
|----|------|--------|--------|--------|--------|---|-------|
|    |      |        | 生時~10日 | 10~20日 | 20~60日 | 計 |       |
| Y  | Y母哺育 | 31     | 1      | 2      | 0      | 3 | 90.3  |
|    | B母哺育 | 33     | 3      | 1      | 1      | 5 | 84.9  |
|    | 計    | 64     | 4      | 3      | 1      | 8 | 87.5  |
| B  | Y母哺育 | 33     | 1      | 2      | 0      | 3 | 90.9  |
|    | B母哺育 | 31     | 3      | 0      | 1      | 4 | 87.1  |
|    | 計    | 64     | 4      | 2      | 1      | 7 | 89.1  |

2. 10日令体重、及び生時から10日令までの増体量は第3表に示す通りで、B種仔群はY種仔群に比し顕著な發育を示している。更に10日令までの仔群發育から見た哺育母豚の泌乳能力は明らかにY種が勝れている。しかしながらこれらの違いは仔豚の生時体重の違いにもよるものと考えられるので、その増体量について比較してみても、B仔群とY仔群の増体量の差

3. 20日令体重、及び10日から20日令までの増体量における仔豚品種差は第3表に示す通りきわめて顕著に認められ、B種はY種に比して体重の違いは著しく、これは前期同様である。これに反して哺育仔豚増体量から推定される泌乳能力に関しては、きわめて興味ある事実がみられた。即ち10日令までは泌乳能力はY種母豚に比して勝れた成績が見られたに反して、この時期においてB種母豚がY種母豚より勝れた成績を示していることである。恐らくこれは乳量分泌型に関する品種間の違いのためではないかと考えられる。

4. 20~60日令仔豚体重は第3表に示す通りやはりB種がY種に勝っているが、この時期における増体

第3表 各期別仔豚体重 (kg)

| 仔 | 母 | 10日令(生時~10日)  | 20日令(10~20日)  | 60日令(20~60日)   |
|---|---|---------------|---------------|----------------|
| Y | Y | 2.530 (1.328) | 4.139 (1.609) | 11.378 (7.239) |
|   | B | 2.420 (1.211) | 4.110 (1.690) | 10.467 (6.357) |
|   | 計 | 2.475 (1.267) | 4.125 (1.650) | 10.923 (6.798) |
| B | Y | 3.050 (1.773) | 4.689 (1.639) | 11.200 (6.511) |
|   | B | 2.643 (1.404) | 4.623 (1.980) | 11.960 (7.337) |
|   | 計 | 2.847 (1.607) | 4.656 (1.810) | 11.580 (6.974) |

備考：( ) 内 数字は増体量を示す。

量における両種の差異は20日令までに示した程顕著ではないが、やはりB種がY種より大きい。尚仔豚の20~60日令における増体量は、実母に哺育された仔群が里仔群より勝っている。